

第30回定期中央本部大会(発言集約)

責任組合の役割を自覚し、安全を基礎に 持続的発展に向けた展望を切り拓こう!

被災した組合員、復旧作業に精励する 組合員の仲間に思いを寄せて

中央本部は、7月11日(水)13(金)、新大阪ワシントンホテルプラザに於て、第30回定期中央本部大会を開催した。6月には大阪北部地震、さらに7月に入つて西日本豪雨と、JR西労組組合員が働く各エリアが直撃された。今回の大会にかける思いは、荻山委員長の「わたしたちの思いを共有して、団結を固め難局を乗り越えるための意志統一を図るべく、被災した組合員、復旧作業に精励する組合員の仲間に思いを寄せて、開催することとします」との力強い声明に集約されていた。上村書記長の1000円カンパの呼びかけも、JR西労組の原点「助け合い・相互扶助」の精神を具現化する取り組みである。参加者全員が、被災地に思いを馳せ、真摯にJR西労組運動と向き合うことができた大会であった。

全体質疑

現場視点の施策となっているか

本社総支部 蒲代議員

●本社総支部が、本大会の準備地本を担わせていた。き、感謝を申し上げる。180名でお世話をさせていただく。

●安全確立の取り組みは、会社経営にとっても、JR西労組運動にとっても、様々な施策・運動を行うにあたって「土台・基盤」となる。本社・間接で働く組



●今後、同一労働・同一賃金、駅契約社員廃止による業務の見直し等の大きな課題が待ち受けている。また、プロ採用一生涯の



地本独自のボランティアで 仲間を助ける活動

岡山地本 堂屋敷代議員

●「平成30年豪雨」について、問題提起をさせて頂く。現在把握している被災状況だが、床上浸水が30件。家屋の全壊・半壊が20件。20名の方がまだ避難をしている。グループの仲間も約30軒が被災しているとの報告を受けている。

●本大会に出席する予定の今井副委員長は、自宅が浸水し、近所の方に救出され、現在は折れかかった心を何とか支え、家の復旧作業を行っている。ただ、未だ家族と連絡が取れない組合員もいると聞く。大瀧委員長は本大会を欠席し、今まさに対応や情報収集にあたる。しかし、まだ予断は許されない。

●岡山地本としても、今回の豪雨災害の課題について、関係各所ですっきりと協議していきたい。

●発生直後の本部大会の在り方について、組合員の

●働き方改革について、いわゆる「PDCAサイクル」の安否確認メールは、休職者を含む社員全員に送っていただきたい。

●岡山地本として、組織内議員や交運協など連携し取り組んでいくが、中央本部も一緒に早期実現に向けての取り組みを要請したい。

●今後、同一労働・同一賃金、駅契約社員廃止による業務の見直し等の大きな課題が待ち受けている。また、プロ採用一生涯の

●今後、同一労働・同一賃金、駅契約社員廃止による業務の見直し等の大きな課題が待ち受けている。また、プロ採用一生涯の

●今後、同一労働・同一賃金、駅契約社員廃止による業務の見直し等の大きな課題が待ち受けている。また、プロ採用一生涯の

●今後、同一労働・同一賃金、駅契約社員廃止による業務の見直し等の大きな課題が待ち受けている。また、プロ採用一生涯の

●今後、同一労働・同一賃金、駅契約社員廃止による業務の見直し等の大きな課題が待ち受けている。また、プロ採用一生涯の

●今後、同一労働・同一賃金、駅契約社員廃止による業務の見直し等の大きな課題が待ち受けている。また、プロ採用一生涯の